

2018年3月16日

ティラノサウルスを超える史上最大級の肉食恐竜 「スピノサウルス」の化石(頭骨・椎骨)が 成城学園に寄贈されました

学校法人成城学園(東京都世田谷区 理事長:渡 文明)は、このたび、ユマニテク短期大学の准教授十津守宏氏より、保存状態が良く大変珍しいもので専門家からも注目されているスピノサウルスのオリジナル頭骨と椎骨標本(化石)とアリゾナ産珪花木(化石)を寄贈していただきました。

十津守宏氏は本学園の卒業生であり、「ユニークな教育をしている成城学園には、幼稚園から大学生まで多くの生徒がいるので、生徒達に“自然生命”について興味を持って欲しい、ぜひユニークな教育カリキュラムの中で有効活用していただきたい」との思いとともに、寄贈のお申し出をいただきました。

今回の寄贈に感謝し、お披露目、感謝状贈呈式を実施いたしました



今回の寄贈に感謝し、2018年3月12日(月)に学園内の成城学園澤柳記念講堂にてお披露目・感謝状贈呈式を開催いたしました。当日は、寄贈いただいたユマニテク短期大学の准教授十津守宏氏、本学園 理事長 渡文明、本学園 学園長 油井雄二をはじめ、本学園の小学6年生約40名が授業の一環として参加しました。

本学園 理事長 渡より、十津守宏氏の寄贈に対する感謝状が贈呈されたのち、十津氏よりご挨拶とともにスピノサウルスの説明をしていただくと、参加した6年生からは答える時間がなくなるほど多くの質問がだされ、さながらスピノサウルス即席質問会の様相となりました。

スピノサウルスは、映画「ジュラシックパーク III」ではティラノサウルスを圧倒した最強・最大の肉食恐竜として紹介され、一躍その存在が世に知られるようになったこともあり、興奮さめやらぬ生徒からは「思った以上に化石が大きかった」「初めて恐竜の化石を見た」などの感想を聞くことが出来ました。

■十津守宏(とづ もりひろ)氏コメント

母校である成城大学には、大変お世話になりました。ユニークな教育をしている成城学園には、幼稚園から大学生と多くの生徒がいるので、生徒達に“自然生命”について興味を持って欲しい、という思いから今回寄贈させていただきました。

■プロフィール

1996(平成8)年 成城大学 文芸学部 文化史学科 卒業。2001(平成13)年3月 成城大学大学院 文学研究科 日本常民文化専攻 単位修得満期退学。ユマニテク短期大学准教授。

専門は宗教学、哲学。宗教学の研究の一つとして「滅びた生物」の恐竜に興味を持つ。

これまでも福井県立恐竜博物館や佐賀県立宇宙科学館などにも貴重な化石標本を寄贈している。



■今回寄贈されたスピノサウルス頭骨標本について

真鍋 真（国立科学博物館・標本資料センター・センター長）

1912年にエジプト・サハラ砂漠の中生代白亜紀（約9700万年前）の地層から、ドイツ人古生物学者によって発見され、1915年、背骨が棘のように上方に長く伸びることから、スピノサウルス（棘トカゲ）という学名が付けられた。その標本はドイツ・ミュンヘンの博物館に保管されていたが、第二次世界大戦中の1944年に空襲で消失した為、「謎の恐竜」とされていた。「ジュラシックパークIII」では、ティラノサウルスよりも大きな肉食恐竜として紹介され、世界中に知られる存在となったが、その詳細は謎のままだった。

2013年、モロッコのサハラ砂漠でほぼ全身の骨格が発見され、2014年、四足歩行で水中生活をしたらしい恐竜としての復元が発表された。水中生活にも適応したらしい恐竜としては世界初、四足歩行をしたらしい肉食恐竜としても世界初の発見となった。

スピノサウルスの頭骨の化石は珍しい。十津守宏氏が成城大学に寄贈したスピノサウルスの頭骨化石は、頭部の骨の破損や変形が少なく、状態が良い標本と考えられる。今後、CTスキャンなどを使用した研究によって、脳や三半規管の形態が復元出来れば、スピノサウルスが水中生活に進化した謎を明らかに出来るかもしれないことから、注目されている標本である。

